

平成19年度「立ち上がる農山漁村」選定事例概要書

取組分野：【女性・若者の力】

1. 都道府県、市町村	山口県岩国市 ^{いわくにし}
2. 事業者名	錦町林業振興会女性部会
3. 取組みの名称	森林の利活用による地域の活性化
4. 取組概要等	

概要

昭和59年に、育林技術の習得を目的に18名の女性で結成された錦町林業振興会女性部会では、森林内の未利用資源を活用した特産品の開発と整備の推進、都市住民との交流促進など森林の利活用による地域の活性化を図っている。

材価の低迷とともに、山へ足を運ぶ人が減り始め、会の活動も停滞し始めた昭和63年、つるきり作業で切り捨てていた「つる」をかごづくりの原材料として着目し、「つるかごづくり」を開始した。これまで阻害物として扱われてきた森林内の未利用資源を女性ならではの視点で商品化・販売することで、つる採取による森林整備の促進、作品制作によるグループ活動の活性化、作品販売による収益の増加に成功した。併せて、県内外から「つる細工」の指導依頼が殺到し、様々な場所に出向いて、都市住民と「つる細工」を通じた交流を図ってきた。現在でも北海道をはじめとした全国各地の女性との継続的な交流が行われている。

平成6年、新たな特産品開発として、枝打ち作業や下刈り作業の際に捨てられる枝葉や林内植物を活用した「草木染め」に着手した。試行錯誤の末、その技法を確立し、現在では町の特産品に位置づけられるまでとなった。また、こうした活動の成果が行政を動かし、平成10年には町の協力により既存ストックの有効活用の観点から、旧商工会館を一部改装し、活動拠点「草木染め工房なないろ」を建設した。

これにより、県内外から年間1,000名を超える草木染めやつる細工の体験交流希望者が工房を訪れるようになった。体験交流の受入により、都市と山村との交流がさらに推進されるとともに、錦町の活性化にも大きく貢献し、林業女性グループとして他の模範となっている。

活動の規模

項目	H14	H15	H16	H17	H18
生産量	1,600	2,000	2,400	2,500	2,700
解説	単位：枚 草木染め販売枚数				
売り上げ	2,200	2,500	3,000	3,500	3,500
解説	単位：千円 草木染め作品、つる細工品、体験工房による収入				
来客数	750	800	1,000	1,200	1,300
解説	単位：人 草木染め・つる細工体験者数（出張指導含む）				
雇用者数	36	36	38	41	41
解説	単位：人 発足時：18人				

活用している地域資源

林野率91%の錦町の自然豊かで恵みの多い森林資源

- ・つる細工（つるかご、リース等）：ツヅラフジ、ヤマフジ、アケビ、松、クヌギ等
- ・草木染め：杉、ヒノキ、タブ、クワ、コアカソ等

地域活性化のポイント

当会は、森林内の未利用資源を活用したつる細工・草木染めの先駆的グループであり、森林整備の推進と併せて、県内外を問わずその技術を、他のグループに惜しみなく提供し、普及・指導に努めている。

現在、活動拠点である「草木染め工房なないろ」がある錦町に、**都市部を主として年間1,000名を超える体験交流希望者が訪れており**、地域の活性化に大きく寄与している。

また、これまでの積極的な取組とその技術力が認められ、草木染め、つる細工が町の特産品として位置づけられるとともに、町おこしの一環として実施している「町ぐるみ博物館」の1つに「草木染め工房なないろ」が選定されるなど、地域からの期待も非常に大きい。

さらには、**女性の視点を活かした活動が周囲に認められたことにより、会員の活動に対する意識が向上**、会員数も41名と、結成当初の2倍以上に増加するなど、**地域女性の社会活動への参加促進につながっている。**

事業の今後の展開方向

インターネットによる森林資源を活用したインテリア雑貨や草木染め等の全国販売を展開させるため、山口県内の4つの林業女性グループが連携し、平成17年6月「森の恵みネットワーク」を設立、10月にはHP「森からの贈り物」を開設し、販売を開始した。その事務局を当会が担うなどネット販売の中心的グループとして活動を展開している。将来的には農業や漁協女性グループ等とも連携しながら第一次産業女性連携一大ネット販売を目指し準備しているところである。

また、当会は、地域林業の普及啓発、森林整備の推進を目的とした自主研究グループであり、会の運営は会費でまかなってきたのが現状である。今後は、地域社会への大きな進出を目指すため、収益率の高い注文生産販売等にも力を注いでいくとともに、都市住民の体験交流の受入及び出張者指導の継続、森林教育指導への協力、新商品開発等の展開を目指している。

当会の会長はリーダーとしての資質や実行力が県内外で認められ、林業女性グループの代表として県の女性連携会議の会長はじめ数多くの役職に就いており、農山漁村地域における女性の果たす役割や男女共同参画に向けた取組を一層強化していくこととしている。

